

‘社会との協働が生む、 社会のための知の実践’ に向けて

独立行政法人 科学技術振興機構
社会技術研究開発センター
センター長 泉 紳一郎

社会技術研究開発の源泉

1999年6月『世界科学会議』（ブダペスト宣言）

「知識のための科学」

「平和のための科学」

「開発のための科学」

「社会のなかの科学・社会のための科学」

社会技術研究開発の方針

‘社会との協働が生む、社会のための知の実践’

基本理念 (どのような基本的視点を持つか)

社会における具体的問題の解決を通じて社会の安寧に資するとの事業目的の下に、以下の理念をもって運営

- 社会の具体的な問題が現出するコミュニティや現場における経験的かつ実践的な知見を重視
- 人々の複雑性、多様性を包摂した社会を直接の対象
⇒ 自然科学と人文・社会科学の複数領域の知見を統合し、問題の関与者や成果のユーザーとも協働
- 社会の具体的な問題の階層性、多面性
⇒ 個別プロジェクトを俯瞰し統合、普遍化し、政策・制度や新たな仕組みづくりに貢献

研究開発領域の設定

取り組むべき社会の問題を「研究開発領域」として設定し、問題の解決に寄与し得るプロジェクトを公募

←自然科学系の科学技術要素 多／新技術oriented

自然科学系の科学技術要素 少／具体的問題oriented →

純粋科学、基礎研究と
社会問題の邂逅

問題解決のための新技術
の社会への普及

新技術と社会変化の相互作用
(社会ニーズに合った技術開発～技術の出口の模索)

科学技術と社会の境界で生じる問題
(トランス・サイエンス問題)を解決する技術

地域はじめコミュニティ
に根ざした研究開発

科学技術イノベーション政策のための科学(H23～)

問題解決型サービス科学(H22～)

研究開発成果実装支援

- ・公募型 H19～
- ・成果統合型 H25～

持続可能な
多世代共創社会の
デザイン
(H26～H31)

コミュニティがつなぐ
安全・安心な
都市・地域の創造
(H24～H29)

コミュニティで創る
新しい高齢社会の
デザイン
(H22～H27)

地域に根ざした
脱温暖化・
環境共生社会
(～H25)

犯罪からの
子どもの安全
(～H24)

情報と社会
(～H22)

科学技術と人間
(～H24)

脳科学と社会
(～H21)

安全安心
(～H18)

社会システム
・社会技術論
(～H19)

循環型社会
(～H19)

↑
時間
(発足時期)

研究開発プロジェクトの推進

～研究開発、実装活動の例～

【安全安心／実装支援】

津波災害総合シナリオ・シミュレーターの
開発と啓発活動

片田 敏孝 群馬大学 教授



【情報と社会／実装支援】

大災害発生時における生活再建支援システムの
開発と実装

林 春男 京都大学 教授



【脳科学と社会／実装支援】

発達支援の必要な子どもや家族への
早期支援システムの社会実装

神尾 陽子 国立精神・神経医療研究センター 部長



【犯罪からの子どもの安全】

犯罪から子どもを守る司法面接法の開発と訓練

仲 真紀子 北海道大学 教授

研究開発プロジェクトの推進

～研究開発、実装活動の例～

【問題解決型サービス科学】

音声つぶやきによる医療・介護サービスの向上

内平 直志 北陸先端科学技術大学院大学 教授

【犯罪からの子どもの安全／

研究開発成果実装支援（成果統合型）】

国際基準の安全な学校・地域づくりに向けた
共同活動の支援

山本 俊哉 一般社団法人子供安全まちづくりパートナーズ
代表理事

【地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会】

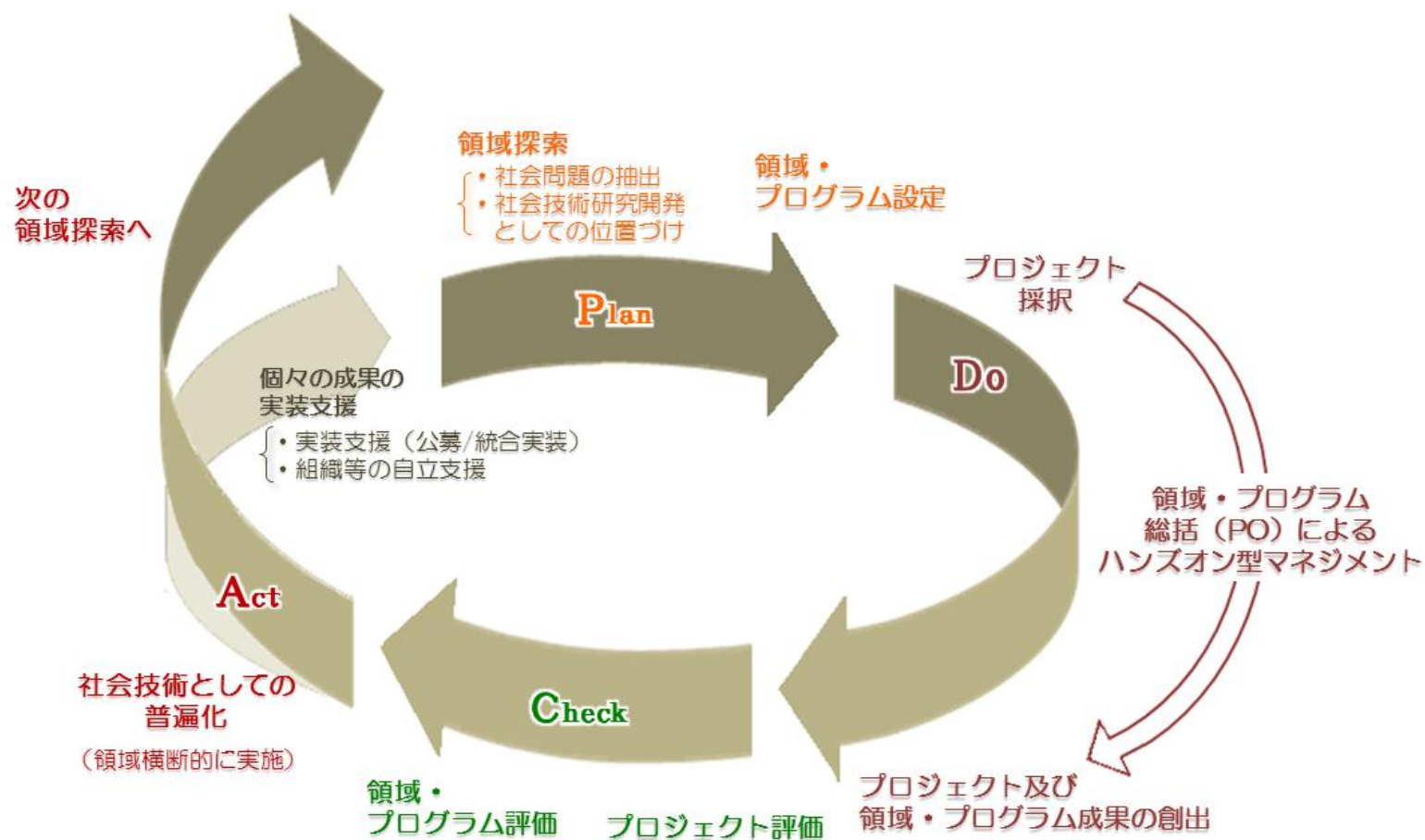
領域と複数プロジェクトの連携による活動

- ・地域を主体としたエネルギー戦略の必要性和
そのための地域自然エネルギー基本条例のひな形を提示
- ・‘適正技術’の典型例づくり
EVコミュニティービークル、
小水力発電に関するハンドブック



桐生市のお祭りで商店街を走るeCOM-8®

R I S T E Xの活動と展開



領域探索から研究開発支援、評価に加え、それらの成果を社会技術として統合・普遍化する取り組みを強化。

それらの知を制度・政策への提言や新たな活動に展開。